

「東京を一体として捉えた大都市経営」について

★東京自治制度懇談会「議論のまとめ」（H18.11.）にて提示された考え方

◆「大都市経営」とは

大都市の安全性、機能性及び快適性を維持向上させるという大都市全体の利益のために、その地域の行政課題を総合的・一体的に解決することによって、集積のメリットを効果的に発揮し、集積のデメリットを効率的に解消していくこと

○大都市における集積のメリット

情報入手や人材確保の容易性、高い交通利便性、それらに伴ってビジネスチャンスが増えることなどがある。こうしたメリットは、さらなる人口や企業の集積を呼ぶという相乗効果をもたらす。

○大都市における集積のデメリット

交通渋滞や都市型犯罪などの外部不経済も発生している。

○大都市経営の主体が行う事務の例

- ・都市づくりビジョン、大都市経営に必要な都市計画の策定
- ・大都市内の基幹的な交通ネットワークを形成する道路や地下鉄、港湾等物流拠点等、都市基盤の整備及び維持管理
- ・魅力あふれる大都市としての集客機能の強化、都市文化の振興、都市景観の整備
- ・その魅力を世界にアピールしていくプレゼンテーション
- ・都市型犯罪やテロなどへの対応